

八重葎

葉長葉種種アリ夏葉間ニ花ヲ開ク其形牽牛花ノ如ク極テ小ク三分許白色ニシテ中心紫色、炙
痴ノ脱タルアトノ色ノ如シ故ニヤイトバナノ俗名アリ花後圓實ヲ結ブ大サ二分許秋冬熟シ
テ黃褐色ニシテ光アリ此實ヲ俗ニスツメノタゴト呼ブ

〔新撰字鏡〕葎葎 久良

〔重修本草綱目啓蒙〕葎葎 葎草葎草 略 中

古ヨリ葎ノ字ラムグラト訓ズルハ非ナリムグラハ小葉ニシテ廢地ニ多ク繁延ス故ニヤエム
グラト歌ニヨメリコレ救荒野譜ノ猪殃殃ナリ

〔枕草子〕葎葎 草葎 は

やへむぐら

〔萬葉集〕古今相聞往來歌 問答

念人將來跡知者八重六倉覆庭爾珠布益乎

〔伊勢物語〕昔男ありけりけさうしける女の許にひじきもと云物をやるとて

思ひあらばむぐらの宿にねもまなんひしき物には袖をしつゝも

〔拾遺和歌集〕秋 河原院にてあれたるやどに秋來といふ心を人々よみ侍りけるに

惠慶法師

やへむぐらまげれるやどのさびしきに人こそみえね秋はきにけり

釣藤

〔本草和名〕十四 釣藤楊玄操音 一名吊藤出陶 一名鵝藤出唐

〔多識編〕二 釣藤今案布知都利波利

〔物類品隲〕三 釣藤 和名カラスノカギヅル 依木蔓延ス莖初方ニシテ後圓ナリ枝相對シテ出ヅ

葉臘梅葉ニ似テ滑澤ニシテ兩兩相對葉間有刺形鈎ノゴトシ是ヲ釣藤鈎ト云小兒方中ニ用ウ